茅野市の博物館だより　No.3 1990.10.15

八ヶ岳通信

茅野市尖石考古館・八ヶ岳総合博物館・美術館

―― 尖石考古館 ――

「尖石遺跡発掘特別展」開催

―縄文時代のムラの研究はこうして始まった―

期日　平成２年10月16日(火)～11月４日(日)

尖石遺跡が学会に報告されてほぼ100年、宮坂英弐氏が集落の研究を目的に発掘を始めて50年になります。その間発掘や研究にたずさわった方々は殆ど他界され、その様子をうかがい知るすべはなくなってしまいました。また八ヶ岳山麓も開発が進み、大きな変貌が始まっています。

八ヶ岳西山麓は縄文文化の最も高揚した地域で、尖石遺跡はその中の最大級の遺跡です。その遺跡を宮坂氏は八幡一郎氏をはじめ中央の第一級の研究者の指導を受けながら発掘を続けました。戦争と敗戦の泥沼にのめり込み学問文化から遠ざかっていく世相の中で、ひたすら宮坂氏は縄文のムラを追い求めました。そして多くの識者が尖石に注目しました。与助尾根を含めて遺跡「尖石」は、この時代の日本考古学界への資料提供の中心的存在であったと考えられます。そして尖石遺跡はこの時代唯一の特別史跡に指定されました。

またこの時代に集落の発掘というような大事業をなしおおせたということは、宮坂氏のすばらしい研究心と不屈の意志によることは勿論ですが、これを支えた人々があったことも見逃せません。この多くの人たちの人間模様が、ある面では尖石遺跡の研究を推し進めたようにも思えます。この尖石遺跡発掘研究の姿をわかるかぎり掘り出し整理しておくことをねらいに特別展を計画しました。

幸い宮坂氏のご遺族から氏の日記、書簡、発掘用具等の当時の様子のわかる貴重な資料や勲章や書画等の氏の宝、日常品など、ほとんどの遺品のご寄贈をいただきました。また尖石遺跡紹介の恩人である小平小平治、雪人の収集品も寄贈いただいております。

明治26年遺跡が報告された時から、宮坂氏によるわが国最初の縄文集落研究の姿をできるだけ具体的に展示しようと心掛けています。東大総合研究資料館所蔵の大正11年発掘の土偶、片倉館その他で所蔵されている土器、測量士矢島数由氏の研究資料も展示する予定です。資料未整理の点もあり力不足の面、不備な面等多々ありますが、この機会を逃してはと考えてこの特別展を計画しました。

特別史跡地も古代公園用地として買収がすみ、今後の遺跡保存と活用を考える段階になっています。近隣には青少年の森の構想も進んでいる折から、尖石遺跡の発掘研究が果した役割、尖石遺跡及び尖石考古館の今後の方向など考えていかなければと思っています。

ご来館をお待ちしています。特別講演会にもご参加ください。

特別講演会

「尖石遺跡と集落研究」

期日　10月27日(土)　午後２時30分～

会場　茅野市役所議会棟１Ｆ大会議室

講師　明治大学教授　戸沢 充則、勅使河原 彰

映画　「尖石遺跡」（昭和41年製作、進藤兼人監督）

旧尖石考古館（現資料収蔵庫）

亜高山帯の植物

～「ふるさと講座」八ヶ岳の植物観察会より～

本年度の植物観察会は7月22日、阿部義男先生のご指導で、約50名の参加者が、白駒池から麦草峠、雨池を経て横岳坪庭までの北八ヶ岳の池と樹林を巡るコースを歩きました。

「高山植物」と言えば、コマクサやウルップソウを思い浮かべますが、これらは南八ヶ岳の硫黄岳から横岳・赤岳の縦走路など、標高2500m以上の砂礫地に生える「高山帯」の植物です。

一方、白駒池周辺に見られるような「亜高山帯針葉樹林」は北八ヶ岳を代表する植生と言えます。この標高1500m～2500m位の、オオシラビソ、コメツガなどの針葉樹林内では、林床を厚くコケが覆い夏でもうす暗くひんやりとしています。ここには、小さいランの仲間やオサバグサ、ゴゼンタチバナなどがうす緑色や白い花をひっそりと咲かせています。そんな目立たない花や花期を過ぎた葉だけの植物についても、阿部先生が詳しい解説をされます。高山帯の色鮮かな人目をひく花々とはまた違った魅力を、針葉樹林帯の植物に見ることができました。

また麦草峠は、マルバダケブキ、テガタチドリなど、霧ヶ峰や車山高原と共通した種類の植物も多く見られる「亜高山帯の草原」です。

そして横岳の坪庭は、標高約2300mの亜高山帯に位置するにもかかわらず、本来は高山帯に生えるクロマメノキ、ガンコウラン、ハイマツ等の低木が岩の間をうめています。これは、風当りが強く、溶岩の岩場で栄養分が少ないためです。

キソチドリ（らん科）
亜高山帯針葉樹林に生える。高さ約20cmで、淡緑色の花をつける。

私達は八ヶ岳の裾野に生活していながら、その歴史や、こんな自然の様子をあまり知らないでいるのではないでしょうか。今後も観察会では、単に現地で花の名前を覚えるだけでなく、名前の由来や、気象や土壌の条件による植物の分布の違い等、多角的に学んでもらえるように考えています。

発明工夫展 10/14～11/3 開催

市内小中学校より応募された生徒の作品で、発明・工夫された工作や研究、未来の茅野市の絵画などを展示します。工夫された作品の数々をご家族でご覧ください。

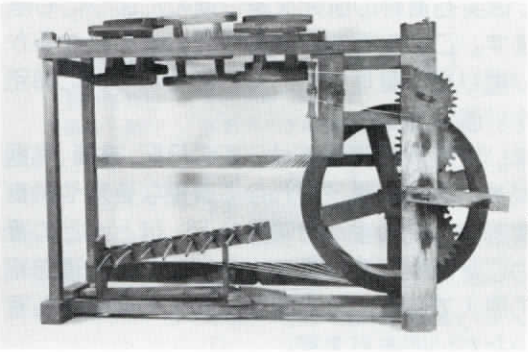
動く道具のカラクリ

民俗資料収蔵品展 11/11～11/30 開催

今年度のテーマは「動く道具のカラクリ」です。おもに農業や製糸に関する道具について、どんな仕事に使われ、動く仕組がどのように工夫されているか、実際に動かして学習できるよう展示します。

例えば「糸撚（よ）り機」。取っ手を回すことで7つの歯車が噛み合って回転し、撚りをかけながら、1度に8つの小管へ糸を巻き取ることができます。手間と労力を省き、能率的に仕事を進めることができます。また歯車の組み合せ方で回転運動を上下運動に変えたり、その逆のカラクリも工夫しています。このような工夫は自動車をはじめ今使われている道具などに生かされているのです。

今回の特別展で、小さな“産業革命”を繰り返し、現在の生活が成り立っていることに気づくことと思います。



糸撚（よ）り機

開館10周年記念企画展

蓼科の洋画家展（Ⅰ）から

7/21 蓼科の洋画家展(Ⅰ)テープカット

茅野市美術館は本年度で開館10周年を迎えました。当館は郷土色あふれる地方美術館として諏訪地方出身作家の作品を中心に、日本画・洋画・彫刻・工芸・書等美術全般にわたって展示しています。これまで成長できたのも、皆様の深いご理解とご厚情の賜と存じ、心より御礼申し上げます。

この度開館10周年記念「蓼科の洋画家展(Ⅰ)」を7月21日より8月7日まで開催することができました。蓼科をはじめ八ヶ岳の自然の風景は四季をつうじて多くの芸術家が愛してきたモチーフであり、また休息の場として、多くの先生方が訪れています。この展覧会は開館当初からの念願の企画でもありましたが、諏訪中央病院名誉院長で茅の会事務局長である今井澄先生のお口添えで実現することができました。

今回出品を承諾していただいた5名の先生方はいずれも独自のスタイルを持ち、独立展など中央で活躍されており、具象絵画の分野で新しい方向性を示しておられる日本の洋画壇を代表する作家といえます。

大津英敏先生にあっては、愛らしい表情やしぐさの中にある少女時代に共通した、どことなく寂しげで危うい情感を、一瞬のスナップ写真のように捉えた作品を娘さんを題材として描いています。また、松樹路人先生は、都会的な洗練された人物を中心に、気球、トランプ、自転車といった身の回りの物を配した鮮明な画面が印象的でした。

芝田米三先生は、健康的で理知的な婦人像に定評がありますが今回出品の大作「山の彼方の夢を見し」は、雄大な八ヶ岳が上部に配置され、強烈な赤の母子像は、先生の仕事の中でも、よりダイレクトな愛情表現となっていました。

中尾彰先生は年の3分の1を蓼科で暮され、本展には長年に亘って様々なかたちで追い求めた、高原と麓の村の心象作品をまとめて出品していただきました。その童話を想わせるロマンチックな色彩は、冬を描いても温もりの感じられる作品群でした。吉浦先生においては西洋のエスプリを感じさせる、異国情緒あふれる作品を多く出品していただくことができました。

各作家の作品は共通して上品で清楚なイメージを想起させてくれました。画面構成では各作家をとりまく自然の中（環境としての都市空間も含めて）に愛情を注いでいる人物を配していることも一つの共通した特徴といえるのではないでしょうか。

今回の企画展において2回、3回と美術館へ足を運んでくれた熱心な地元の方々や、この展覧会のために首都圏よりわざわざ来館された方々もおられ、主催者側としてうれしく思いました。この企画は今後、折りにふれて続けていきたいと考えています。

作品紹介

「少女―（静かな風景のなかに）」
松樹路人
P80号　昭和61年制作

シリーズ　諏訪の方言　—おらほうのことば—②

天気に関する方言は身近で、挨拶の時にも使われることが多いものです。天気や自然現象を表わす方言を集めました。

およだち・おれえあめ…夕立、雷雨
かんだち・かんだっつあま…雷、雷発
はあて…薄雪　　**てり**…照り、晴天
てんかんぼし…旱魃、日が烈しく照りつける
もうもうしい…天気の悪いこと。小雨などが降りしきり、見通しの悪いこと。
ひどろったい…日が照ってまぶしい様。
ぬくとい…温かい
しみる…凍みる、とても寒い
みずがあく…水が明く、諏訪湖が解氷しはじめること。
うとけ…地面の凍み上り

守矢家の史料を後世に

史料館の建設はじまる

守矢家先祖代々に伝わる古文書、什器類を収蔵・展示するため、宮川高部に建設されている神長官守矢史料館。8月24日、現地で起工式があり当主の守矢早苗さんをはじめ地元出身で設計者の東大助教授、藤森照信先生ら30人が出席して、工事の安全を祈願しました。

親しみのある建物に

史料館は、モダニズムのデザインを避け、合理性と使いやすさ、安全性を重視した建物で鉄筋コンクリート3階建て。面積は約67坪。1階が展示室で2・3階は収蔵庫になっています。

「建物が完成すれば、全国的にも注目されるでしょう。地元の人に親しんでもらえる建物にしたい」と、設計に携わった藤森先生。外壁には壁土を塗り、その上に手で割ったサワラの板を張りつけます。そして、屋根は鉄平石ぶき。入口には、イチイ（通称みねずぼ）の木を建て、なぎ鎌を打ち込みます。

古文書や什器類を展示

館内には、守矢家が諏訪大社の筆頭神官として祭祀を司ってきた様子を再現するため、鹿や猪の生首、肉料理等を展示するほか、県宝や市有形文化財に指定されている古文書、信玄拝領十角重箱や大祝即位の化粧道具等の什器類が展示されます。

史料館の開館は、来春です。みなさんも守矢家に伝わる貴重な史料に触れ、当時をしのんでください。

大祝即位の化粧道具

—あとがき—

季節は芸術の秋！八ヶ岳総合博物館では10月14日から「第2回発明工夫展」、尖石考古館では10月16日から「尖石遺跡発掘特別展」、美術館では10月12日より「信州ゆかりの水彩画展」と特別展が目白押しです。秋のひととき、ご家族、お友達そろってのご来館をお待ちしています。どうぞ、お出かけください。

茅野市の博物館だより　八ヶ岳通信　No.3

発行年月日　平成2年10月15日
編集・発行　茅野市八ヶ岳総合博物館
〒391-02 茅野市豊平6983番地
TEL.（0266）73-0300
茅野市尖石考古館
〒391-02 茅野市豊平4734-132
TEL.（0266）76-2270
茅野市美術館
〒391 茅野市玉川500番地
TEL.（0266）73-5440